



→大きくなって、またこの海岸へ帰ってきてね

汐見小 城川内小 本浦小の 児童たちがヒラメの稚魚を放流

豊かな海づくり事業

放流効果に期待を寄せて。町内の汐見海岸と小浜海岸、諸浦沖で6月22日、ヒラメの稚魚が放流されました。これは「豊かな海づくり事業」の一環として行われたものです。

汐見海岸では、地元の汐見小学校の児童が、大型トラックで栽培所から運ばれてきた約8万匹の稚魚を、一人ひとりバケツで運び、砂浜でゆつくりと放流しました。

このほか、小浜海岸では城川内小学校、諸浦沖では本浦小学校の児童が放流に協力。小さな魚が大海原へ旅たつていく姿を確認した児童たちは、生命の大切さを感じ取っていたようです。

小浜海岸で稚魚を放流した城川内小学校の大西悠さん(5年)は「小さなヒラメは初めて見たけどかわいかった。大きく育ってほしいです」と話していました。

ヒラメ

ヒラメは、沖縄県を除く全国に生息しており、高級魚で漁業者には重要な魚です。比較的浅い海の海底に生息し、卵からふ化して約3年で成魚となり、大きなものは85センチ以上になります。

鹿児島県では、25センチ以下のヒラメは捕ってはいけないことになっています。漁業者のマナーを守りましょう。



ヒラメの稚魚